

二十七年友愛會松岡駒吉、須賀川重三、及西野業、職工側幹部員數を列せ、並に議
 擬らるる函友誼團體新進會側より工組に印刷工組合、機械工組合、意圖ヲ訴へ、上
 件ノ調停方より保護士日野國明ノ人権ヲ信シ、廿二条件ニテ一任ス、トニ協定セリ
 其日午後六時友愛會主催ノ下ニ労働者大会ヲ天正寺公會堂ニ開シ、入場料方爲
 組合員八十名、其他三十名ヲ徴シタルカ、今スル者開會時約八百名ナリ、ニ後
 更ニシテ一千八百名(藤永田職工を含む)注交費徴及伸銷所職工約四百名、其他ノ方
 働者約五百名)ニ及ビ、萬員ニテノ門ヲ閉鎖シ、場外高ニ砲籠ヲ掛セリ
 座長ニ川西武代花ヲ推シ決議及宣言ヲ勸諭決定シ、直ニ演說會ニ移リ、木村鏡
 吉外四名ノ演說アリ、開會前労働歌及革命歌ヲ高唱シ、終ニ驟然スリ、トモ整
 理委員ノ斡旋ニ依リ、「今晚ハ辭曲ニシテ妄動ヲ爲スベカラズ前途ノ解決ノ
 曙光ヲ見ルニ至リト傳ハ、之レカ動搖ヲ制シ且ツ賀以豊多ク、亦本件調停
 ノ経過ヲ述フル所アリテ漸次平穩ニ帰シ、十時後並事閉會シ告ケタリ

決議

- 一 我等ハ飽迄團體交渉權ヲ要求ス
- 二 我等ハ目的貫徹ノ爲メ飽迄秩序ヲ重ンヌ
- 三 我等ハ資本家及官吏ノ猛省スヘキヲ要求ス

大正十年六月廿日
 全大坂労働者大會
 (六月廿日)

職工側ハ日野國明ニ調停方一任シタルヲ以テ、今ハ二十日未工理主側ト折衝シ、職
 工側ハ全時ニ凡ソノ策謀ヲ中止シ、其ノ結果ヲ待テ、ハアリ、其一日格別ノ行動
 ナシ

加僕赤部、南本赤部共約五百名參集、公勤簿ニ捺印セル天平素ニ此ノ其ノ數ヲ
 減シタルカ、幹部員ニ、調停進捗中ニ付、其ノ成行ヲ俟ツノ外ナシ、本日本
 各自帰宅シ、家族ヲ慰ムスヘシ、其ノ夜、雨多ク、所少數幹部員ヲ
 残シ、他ニ帰宅シ、頗ル閑散ノ状ニ至リ